平成 29 年度学校評価報告書

平成 30 年 3 月 2 日

北海道札幌稲雲高等学校長
嶋 岡 裕 泰

1 本年度の重点目標

- 1 自ら学ぶ意欲を育て、目的意識を持って継続的に学習する習慣を身につける。
- 2 自らを律する心と他者と交流する実践力を育て、望ましい人間関係を身につける。
- 3 社会の中での自己実現を考えさせ、進路目標の達成に努力する力を身につける。
- 4 自他の生命・自然を大切にすることを育て、健康・安全の習慣を身につける。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> 「安心・安全な学校」づくりを指導の柱として継続した取り組みを行っている。45分7時間授業や国立大学進学希望者クラスについても学習指導や進学指導の取り組みとして保護者、周辺地域からも一定の評価を受けている。昨年、国立大学に47名の合格者を出すなど結果も安定してきている。また、難関私大への合格など、個々の生徒の実力を引き出す指導も徐々に効果を発揮しつつある。 ホームページを積極的に活用し情報発信に努めた結果、アクセス数も上昇し安定した運用となっている。今後も有効活用を考えたい。 メール配信システムの有効活用として危機管理体制の強化とともに、連絡・案内等にも活用した結果、保護者への情報伝達に役立たせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの回収率について、昨年度71%に対して今年度は81%に上昇した。「情報提供」の項目においては前年度同様、「情報提供が十分にできている」(77%)という高い評価となった。ホームページでの情報発信やメール配信システムの活用、細やかな通信やプリント等が、良好な結果につながった。今後も継続して積極的な情報発信に努めてもらいたい。 昨年度を継続した学校紹介DVD(リニューアル版)の制作、学校紹介ポスター、の配布等のPR活動は一定の宣伝効果があった。 学校説明会のPR活動や、日常の先生方の取り組みを今まで以上に発信する活動を行うことを望む。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 「方策の充実」から「内容の充実」へ、継続した取り組みになるよう力点を置き、改善を図る。 	
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 「学習習慣を確立することができたか」(1年27%)、「家庭学習が自主的な学習へ変化しているか」(2年28%)、「意欲的に学習に取り組む姿勢を身につけさせることができたか」(3年64%)、(1・2年生には、学習習慣の定着と自主的に取り組む姿勢の育成が今後の大きな課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業、学習指導を通して、生徒の能力を十分にひきだすことができています。」(1年52%)、(2年54%)、(3年57%)、学習意欲の喚起と学力向上のために、授業改善を一つのテーマとして取り組んでいるが今後も粘り強く継続した指導を望む。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の喚起と学力向上のために「思考力・判断力・表現力」を伸ばすための授業の研修と実践を進める。 生徒による授業評価、積極的な公開授業の実施等授業の工夫や改善への継続的な取り組みを図る。 平成30年度入学生には、論理的思考力・英語4技能の育成等新たな視点での授業改善策に取り組む。 	
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒指導における職員の共通認識がなされ、学年・クラス間の傾斜なく指導が実施されていたか。」(38%)。今後、研修会を実施するなど、学校として、学年間、教職員間の共通理解をはかり、組織としての指導体制の強化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「基本的生活習慣に関する指導が行われ、その成果が現れている。」(89%)、一方で登下校時等の一部でマナーが悪いのも現状としてある。歩きながらのスマートフォンや、自転車のマナーの悪さ等周囲を巻き込んだ事故になりかねない状況もあるので継続した強い指導を望む。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域住民との連携に努め、社会全体で生徒を見守る体制を整備する。 インターネットやSNS等の指導充実を図る。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路意識を育成することができた。(74%) 先を見据えた進路指導を行うこと(62%)が不十分であった。 進路通信を通じて生徒への適切な情報提供をすること(68%)ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 国立大学進学希望者クラスの取り組みも認知され、結果も良好と考える。 目的を持って進学させるためには、保護者と本人が十分に話し合ったうえで三者面談等を行い、適切な進路指導を行うことが大切であり継続を望む。 将来を見据えた、適切な進路指導が実践されている。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 模試等の分析を共通理解し、各教育活動に反映させるとともに、進路通信等を活用して周知を図る。 保護者の意識改革を図るとともに、家庭での学習習慣を定着させる指導の方策を検討する。 道外大学受験を含めた広い視野に立った進学指導を行う。 	
保健安全指導	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談活動の充実を図ると共に、担任、学年、分掌との連携を促進することができた。(80%) 健康診断、健康調査、保健だよりを通じて、生徒自ら健やかな生活を営むよう工夫させることができた。(80%) 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談活動が周知されスクールカウンセラーによるサポート体制が充実しつつある。教職員向け研修会を実施し、教職員のスキル向上に取り組んでいる。今後もさらに内容を充実させ教職員のスキル向上に取り組むことを望む。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい人間関係を育成するために、専門家と教員による組織的な教育相談活動の充実とスキル向上への取り組みとして教員研修を推進する。 自己管理能力を高められるよう学校全体での指導や支援体制のより一層の充実を図る。 	